「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0530　◇◆◇　　19/04/17

【 「平成時代の通貨変動」について考える 】

4 月 11 日付の日経新聞に興味深い記事が掲載された。お読みになった、という方も多いと思うが、具体的にはマーケット面に掲載された「激動の平成　円相場は縮小」との内容になる。
詳細については、ぜひ現物を参考にしていただきたいのだが、内容を簡単に要約すれば、タイトルにも大意が示されているように「間もなく終わる平成時代は激動期だったが、円相場の変動幅はむしろ少しずつ縮小した」――といったものだった。決して、日経新聞を信用しないわけではないのだが、今回の当レターでは、自分の目で見ないと信用できない筆者が以下で実際に「平成時代」の為替相場を検証してみた。また、ドル/円だけでなく、ユーロ/円とユーロ/ドルについても、同様の作業を起こっている。

◎ドル/円とユーロは異なる傾向、ユーロ/円は「平成三時代」とも安定した変動示す

日経新聞では、平成時代とほぼ重なる 30 年間（1989-2018 年）を 10 年ごとに 3 つにわけ、ドル/円の「年間変動幅」の平均幅を調べた結果として、「最初の 10 年（＝前期、89-98 年）が約 24 円、次（＝中期、99-08 年）が約 18 円、最後（＝後期、09-18 年）が約 15 円」――と指摘していた。
つまり、「平成時代の円相場の変動幅はむしろ少しずつ縮小した」ことが実証されたことになる。

なかなか面白い切り口だが、日経新聞の報じた内容は飽くまで「年間変動幅」。では、似て非なる「年間変動率」なら、どうなるのか。筆者が別途調べてみた。ちなみに、前提となる条件は前述した日経新聞をベースとする。
すると、「前期が 19.0%、中期が 15.5%、後期が 14.8%」――となり、やはり傾向としては日経報道と同じ傾向になっていた。ちなみに、当レターでは再三再四レポートしているように、変動相場制以降のドル/円の「平均年間変動率」はおよそ 16%強だ。しかし、今回の計算からすると、1999 年以降という直近の 20 年はそれを下回る変動が一般的で、そうした意味からもドル/円の膠着化が進んでいることが改めて明らかになったと言えるのかもしれない。

一方、ドル/円については確かに市場が少しずつシュリンクしている姿が明らかになったものの、日経新聞では報じていなかったユーロ相場は果たしてどうなのだろうか？日経新聞が「米欧の日本化」などと揶揄した動きはドル/円に限ったものなのか、筆者が実際にユーロ/円とユーロ/ドルについても同様の手法で検証してみた。その結果は、以下のようになる。
＊注；通貨「ユーロ」が正式導入されたのは 1999 年のため、「前期」はドイツの通貨だったマルク/円あるいはドル/マルクの動きを参照＊
◎ユーロ/円の変動幅；「前期が約 26.5 円、中期が約 22.3 円、後期が約 22.4 円」
◎ユーロ/円の変動率；「前期が 17.8%、中期が 17.1%、後期が 18.2%」
◎ユーロ/ドルの変動幅；「前期が約 0.2050 ドル、中期が約 0.2080 ドル、後期が約 0.1770 ドル」
◎ユーロ/ドルの変動率；「前期が 16.7%、中期が 17.9%、後期が 13.8%」

――興味深いことに、今回調査した結果から言えることは、ドル/円とユーロ円、あるいはユーロ/ドルはそれぞれかなり異なった相場付きをたどっているということ。
大雑把にいえば、ユーロ/円は平成時代の 30 年間、それほど際立った変化がなく、とくに変動率でいえばほぼ安定した 17-18%の変動をずっと保ってきた反面、ユーロ/ドルは前期より中期の変動が大きかったが、それが後期になり急速に萎んでいる。ユーロ正式誕生にともなう、「ご祝儀」的な動きはたった 10 年で早くも剥げ落ちたとも言えそうだ。

いずれにしても、日経新聞が為替相場の動かない理由として挙げていた「米欧の日本化」は、ドル/円について当てはまる部分もありそうだが、ユーロ/円については説明がつかないのではないだろうか。
「では、何が問題なのか」と理由を問われると、筆者も現状では答えを用意していないのだが、次の元号である「令和」に向けて、そのあたりの分析を改めて行い、次の新時代にしっかりと備えたいと思う。（了）

FX Newsletter

▼▲
当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter